

京都教区時報

第192号

田中司教認可

毎月1日発行

発行 京都司教区 発行責任者 村上透磨

編集 京都教区時報編集室 住所 京都市中京区河原町三条上の河原町カトリック会館5F



長崎 1993年10月21日(木)～24日(日)

家庭の現実から
福音宣教のあり方を探る
祈り 回心



第2回福音宣教推進全国会議

私たち長崎に行きます
みなさんは各自の場で、NICE
(ナイス)に参加して下さい

京都教区NICE代表者

藤村嘉彦(峰山)
下平義三郎(津)

柴田敦代(宇治)
岡村真喜子(草津)

青年

池田 誠(衣笠)
内藤 淳(JOC)

修道女
畠下道子(登美ヶ丘)

司祭
氏家阪枝(W・ヨゼフ)

P・オヘール(マリスト)
柳本 昭(担当司祭)

—長崎会議のプログラム—

- 1日目は開会ミサ、オリエンテーション、基調考察
- 2日目は課題一、二への取り組みの報告と分かち合い
- 3日目は課題三への取り組みについて、将来への展望
- 4日目はまとめ(将来への展望の採択)と閉会ミサ

10
1993

よりよき福音宣教 共同体となるために 用語解説 その2

福音宣教

教会の宣教活動全般を指す言葉として、第2バチカン公会議以降特に75年の教皇パウロ6世の使徒的勧告「エヴァンジエリイ・ヌンチアンデイ」の邦語訳タイトル「福音宣教」の流布によつて、その概念とともに近年定着した言葉であろう。従来よく使われていた「布教」という用語より、「福音をのべ伝える」ことが單に、教会が各地に移植されていくことを目指すだけでなく、教会の制度や組織を超えた次元で、人類と世界が福音の力によって変革されていくことをも含めた幅の広い複合的なプロセスとしての「福音化」をも目指しているという認識がその背景に

●「司教」・「教區長」

「司教」は聖靈によつてキリストの十二使徒の座を継ぐ者として聖別され、教会の牧者としてたゞられる。一定の教区の配慮をゆだねられる司教を「教区司教」と称し、その他の司教を「名義司教」と称する。この「教区司教」が教区の司牧任務の権限を有し、その意味で「教区長」と呼ぶ。

「教区司教」が本来の「教区長」であり必要ならば協働司教（継承権を持つ）、補佐司教（継承権はない）を置く場合もある。司教座が障害事態の場合には、協働司教補佐司教、総代理、または教区司祭が臨時に「教区長」の任に当たる。司教が「教区長」を引退する」と「名誉司教」と呼ばれる。

●「教區司祭」・「修道會司祭」
「宣教會司祭」

「聖職者」（司祭・助祭）はどこかに入籍し所属していなければならない（第265条）。

●「NICE(ナイス)」

正式には「福音宣教推進全国會議」という会議の英語訳 National Incentive Convention for Evangelization の各語のイニシャルをつなぎ、NICE と名づけられた。

「聖職者」（司祭・助祭）はどこかに入籍し所属していなければなりません（第265条）。

また修道生活の流れをくみなが
ら、福音的勧告を公的に誓願せず、
使徒的な目的を追求し、共同生活
を営む会は「使徒的生活の会」と
呼ばれる（第731条）。自分の

して「平信徒」という用語が旧教會法でも使われたが、新法では「奉獻生活の会」の者を法的に聖職者と信徒の中間に置く考えを取りなさい。(次号へつづく)

(第710条)とがある。修道会員の中での司祭の叙階を受けた者を「修道会司祭」という(この中にも「觀想修道会」と「活動修道会」とがあり、前者にはたとえば、男子トラピスト会の司祭が属し、後者には、イエズス会、フランシスコ会、エスコラピオス会、カルメル会、聖ヴィアトル会、ドミニコ会、レデンプトール会、マリスコ会の司祭が属している)。また「在俗会」としては、日本では、プラド司祭団がある。

●「信者」・「信徒」

現在京都教区では、アメリカ合衆国からメリノール宣教会、メキシコからグアダルーペ宣教会、フィリピンからフィリピン宣教会・イタリアからザベリオ宣教会の司祭たちが奉仕している。

ぎ合わせたもの。第1回全国会議は「開かれた教会づくり」をテーマに87年11月京都で開催され、第2回は93年10月長崎で「家庭」をテーマに開催される。

の教区に入籍し、司教を直属の上長者として、その下で普通司牧活動に従事する。修道会員ではないので清貧の誓願、共同生活の義務に拘束されない。

生國以外で福音宣教に従事することを目的にしてゐる「宣教会」は、この使徒的生活の会に属し、その会員で、司祭の叙階を受けた者が「宣教会司祭」である。宣教会司

貧しい人は 私達の主人であり師です

Sr 佐久間

●希望の家

私が働いている「希望の家」はJR京都駅の近くで地理的には非常に便利なところにあります。在日韓国、朝鮮人や被差別部落から移り住んで来た人々が半数を占めており、昔から結婚、就職など様々な差別を受けてきました。

この「希望の家」はメリノール会から引き継いで、現在京都教区が設置主体となっています。所長ロベス神父を中心に11人のスタッフで、主に児童と老人を通して地域の福祉活動を行っています。先達者たちの熱心な奉仕の積み重ねとボランティアの協力のおかげで、この地域のセンター的な役割を果たしてきました。

私がこの地域に関りを始めて間もなく「貧しい人は幸い」を現に生きているAさんとの出会いがあり、この方を少しご紹介いたします。

●出会い

三ヶ月ほど前のこと、いつもよ

「戸棚なんかもつたいない」と静かに断られました。また部屋がベニヤ板一枚で仕切られている為、隣の人への暖かい心遣いからいつも無声にしてテレビを見ています。

考えて小さな戸棚を運んだ時にもAさんの一ヶ月分の生活費に当たる大金でした。

お金の為なら恥も考えずどんな事でもし、出来るだけ安楽に便利さを求め、自分さえよければ良いとする自己中心的な現代人の傾向とは反対に、Aさんは家具はもちろんの事、茶碗もお皿一枚も持たず、野の百合、空の鳥のように必要以上の心配もせず、その日その

しよう。それは丁度「畑にかくされた宝」を見出したあの農夫の感動にも似たものでした。

Aさんは今年81歳を迎えいつも穏やかな顔をしている瘦せぎみのおじいさんで、終戦直後からこの地に住み廃品回収をしていました。

私は段ボールや古新聞などをリヤカーにいっぱい積み、汗を流しながら引いていくAさんの姿をよく見かけました。その後殆ど昼間は留守が多くいつも鍵は開けっぱなしです。三階ほどの部屋には小さな机とテレビがあるだけです。私達が勝手に、あれば便利だろうと

感謝して「私の気持ちだから取つておいて下さい」と言つてポケットからお金を出されました。それはAさんの一ヶ月分の生活費に当たる大金でした。

●共に学ぶこと

Aさんとの出会いは、まだ解放されていない私への回心への呼びかけであり恵みでした。最も弱い立場におかれている人々に学び、連帯し、奉仕出来る召命を感謝している毎日です。

うに単身老人の訪問で廻つて行きますと珍しくAさんが横になつていました。腰がひどく痛むようでした。病院に行くことを勧めましたが、「いいです、いいです」と言ふだけで、じつとその痛みを耐えていました。痛みは日ごとに増し

て行くばかり、ちょっと体位を変えても激しく痛む様になり、どうどう本人の意志を無視して救急車を呼び、結局、日赤病院に入院する事になりました。原因は背骨の圧迫骨折だそうです。80歳を越えて毎日リヤカーいっぱいの段ボールを引いて無理をしたのでしょうか、一ヶ月程で一応激痛はそれ退院する事が出来ました。

ある日私達の小さな手伝いに感謝して「私の気持ちだから取つておいて下さい」と言つてポケットからお金を出されました。それはAさんの一ヶ月分の生活費に当たる大金でした。

私は創立者聖ビンセンシオがキリストの復活と解放の力を豊かに秘めているのだと思いました。その娘たちに「あなた方は貧しい人々のうちにおられるキリストに仕えています。それは私達がここに居るのと同じように真実です。或るシスターが一日に十回病人を見舞うなら、一日に十回神に出会うでしょう」と話された事を実感しています。

みんなで

NICE（ナイス）に参加しましよう

京都教区長 田中健一

● NICEは運動です

第二バチカン公会議は、日本ではどちらかというと文書のみで伝えられた面があります。そのためになんとなく親しみを感じない方が多かったようです。

そこで京都教区では、ビジョン作りが行われました。始めにみんなで第一バチカン公会議の勉強を行い、これから京都教区として何を大切にするのかをみんなで考えました。そして、「社会とともに歩む教会」というビジョン宣言文を作りました。12年前発表しました。

公会議と京都教区ビジョンについての説明は、教区時報9月号に掲載された、アンケート解説書の用語解説をご覧下さい。

全国レベルでは、6年前京都で第一回のNICE（福音宣教推進全国会議）が開かれました。会議という名前がついていますので、代表者だけが集まつておこなうも

のとを考えられがちですが、第一回の時はみんなで決めた課題、「日本の社会とともに歩む教会」、「生活を通して育てられる信仰」、「福音宣教をする小教区」という三つの柱に従つて、事前に各小教区、各グループで話し合われた事を各教区でまとめました。

今回の第二回では、意見をまとめる事よりも、とりあえず、各小教区、各グループで分かち合いをするようについて呼びかけがありました。そして、みんなもいろんな場で分かち合いを行なわれた事と思います。

つまり、会議の当日が大切なのはなく、事前の話し合いが大切なのです。こうした意味で、NICEはむしろ運動だと理解したらよいでしょう。

● NICEで家庭の問題を解決するのではありません

「信徒にとって固有な福音宣教の場として、家庭の活動を強調しな

NICE2のテーマは「家庭」ですが、会議の中で家庭の問題を話し合い、解決する事を目指していわなければなりません。第一回のNICEで話し合われた事を、それぞれが、それぞれの場で実行する事が求められました。

ある人は地域で実行しようと努力していますし、ある人は学校の中で実行しようと努力しています

し、ある人は職場で実行しようと努力しています。

ですから、ある人が家庭で実行しようと努力する事が一つの大切な事なのです。

この使命を意識している家庭では、全員が福音宣教し、同時に福音宣教されているのです。両親は子どもに福音を伝えるだけではなく、子どもから生活にふかく生きられた福音を受けとることができます。このような家庭は、近くの多くの家庭にとつて福音宣教者となります。

● 家庭から福音を宣教するのです

「現代社会における福音宣教」をテーマに開かれたシノドス（世界司教代表者会議）のまとめとしてだされた、教皇パウロ六世の使徒的勧告「福音宣教」の文章には、

家庭も福音宣教の働き手であると書かれています。

● みんなでNICEに参加しましよう

教区の代表者が長崎で会議をいたつて考える大切な資料だと思いますので、「福音宣教」71番の文章をここで紹介致します。

「信徒にとって固有な福音宣教の

で、福音宣教に取り組んで下さい。

いではいられません。教会の歴史においても、また第二バチカン公会議においても、家庭はまさしく「家庭の教会」（教会憲章11）といふ美しい名でよばれています。

キリスト教徒のどの家庭にも、教会の種々な面が見いだされるべきである、ということをこの名は指摘しているのです。家庭は、教会のように、福音が伝えられる場であります。さらにそこから福音が照らしだされる場であります。

この使命を意識している家庭では、全員が福音宣教し、同時に福音宣教されているのです。両親は子どもに福音を伝えるだけではなく、子どもから生活にふかく生きられた福音を受けとることができます。このような家庭は、近くの多くの家庭にとつて福音宣教者となります。

NICE準備委員会から

●アンケートの報告

NICEⅠ-II、教区最終報告書に向けてそのアンケートにご協力ありがとうございました。教区内各地からおよそ100通のアンケートが寄せられました。

8月18日の代表者の集まりにおいて、これらのアンケートを精読し、意見を整理しました。もう一度8月31日に集まり、最終報告書をまとめますが、皆さんからの意見はおよそ以下の通りです。

(1)分かち合いから

得られた感想

大きく分けて「分かち合いができる」という声と、「できなかつた」という声が半分半分くらいでした。「できた」ところでは、「NICEをきっかけにはじめて分かち合いができるよかつた」「とてもすばらしい体験だった」というような喜びの声がありました。また「できなかつた」「行事で多忙」「信頼関係ができていない」などの原因があげられました。

ていました。しかし、一方では「そこに気付いたことがよかつた」という評価もありました。

(2)「共感」を持ったこと

ここでは、参加者の体験の分かち合いに対する共感があげられていました。具体的には、嫁、姑の関係で悩んでいることや、一人だけ信者で家族の理解が得られないといったこと、また、自分の歩んできた信仰の道をふりかえった喜びなどが書かれていました。それらの多くは、感動と苦しみに対する共感をもって受け止められています。

(3)その他

ここでは、NICEに対する希望や要望が出されていますが、いま一つNICEの意味が分からなかった」といったことや、NICEへの取り組みやPR不足も指摘され、担当者としての力不足を感じると共に、励ましを受けていることも強く感じています。

11月8日の北信連大会には、レデントール会の吉山管区長に「家庭の『分かち合い』について動きがみえたのは、92年10月以降であるが、11教会の足並みがそろっている訳ではなく、その多くはどうしたら良いか分からなかつたり、教会の行事などで手がまわりかねていて、また「分かち合い」に意義を見出せなかつたりという状態ではなかつたかと思ひます。

いよいよ長崎会議が開かれます。代表者はこれらの教区の意見をもとに会議で分かち合い、今後の取り組みを考えていきます。皆さん

もぜひ祈りをもつてご参加ください。また、現在取り組んでおられる「分かち合いによる共同体づくり」もぜひ続けていってください。お願いします。(文責・柳本)

NICEⅡに向かって

京都府北部の歩み

それでも、小田神父講演のビデオを見たり、「分かち合い」も少しずつですが、進められています。本格的に進みだしたのは、6月27日北信連信徒大会で小田神父のお話を聞き、「分かち合い」とビデオ(教区のものと、ポールメディアのもの)を見てからではないかと思います。

「分かち合い」という言葉に拒絶反応を示す人もかなり有りますが、一方「分かち合い」は日常的な信仰生活の要素と思っている人々も多く、小田神父のお話などにより「分かち合い」が信仰共同体づくりの基礎として大事なものであるとの認識が深まってきたようになります。

「分かち合い」の回数を重ね深めることによって、徐々に本音の「分かち合い」に進み、「共感と共有」「キリストと出会い」「キリストを証しする」共同体として成長して行くように、祈りながら努力していきたいものだと思います。

世界は

皆んな

友

だち

平和への歩み
京都南部
郡司島祥生

登美ヶ丘カトリック教会

創立25周年記念式典

ヤの合唱で、よろこびと感謝のも
り上がるうち、パーティが閉じら
れた。

さて、創立25周年と時を同じく
して、当教会主任司祭のトニ・ゲ
リン神父の「HEART—小さな

8月1日(日)平和への歩み京都南部では、この日を平和の日とし、「世界はみんな友だち」をテーマに在京外国人の方々にもご参加いたしました。

行事としては、ほぼ成功であつたと思います。しかし、心の面ではどうだったでしょうか。登美ヶ丘教会のグリン神父様は、著書「ART」の中で、「憎しみは憎しみを生み、復讐は復讐を生む。憎しみあるもの（敵国日本人）をゆるしなさい」とオーストラリアの將軍を説得され、彼らは、憎しみを忘れ平和のためにゆるすと言つてくれた、と書かれています。私たち

登美ヶ丘カトリック教会では、創立25周年記念式典ミサが、4月25日午後1時より行われた。京都教区長田中健一司教の司式で、11名の司祭方の共誦ミサ。「聖靈心に今来て下さい」の力強い入祭の歌で、侍者たち、司祭方、司教様が入堂された。ミサ中、司教様は、ユーモアを混じながら、25周年のお祝いのことばに統いて、福音中のザアカイになぞらえ、日本と

手のひらに地球を」という本が出版された。同書は師が1952年に来日されて以来の幼稚園園長、保育所所長としての幼児教育の体験に加えて、太平洋戦争による深い傷痕に対し、日豪の心からの和解のため情熱を傾けた「ゆるしの刀」や日本とオーストラリアにおけるカトリックと仏教の合同法要等、スケールの大きな体験の書である。ぜひご一読ください。

ただ、国際ミサと国際平和パレードの行事を行いました。初めての国際ミサと行進、はたしてうまく行くのだろうか？どれだけの外国人が参加して下さるだろうか？ミサは？行進は？不安がありました。

しかし、当日、あまり天気が良くなかったにもかかわらず、韓国、フィリピン、アメリカ、ボリビア、ペルー、ブラジル、ニカラグア、日本など約三百人余りが参加していただき感謝しています。

「世界はみんな友だち」「世界のみなさん、仲良くしましよう」よりも「世界のみなさん、私たちと仲良くしてください」という心が大切ではないでしょうか。

次回11月3日の「インターナショナル・フェスター」にもご参加下さいますようにお願ひいたします。

司教様も「初めての試みのミサ盛り上がりであったと思います。（皆さん方が参加できるようにと、祈りを中心とした今回の行事、とにかく賛否のある日の丸は、持參しませんでした）。

ミサ後、教会ホールでパーティが行われ、田中司教、西田前奈良市長の祝辞の後、婦人会の方たちの手料理を頂きながら、歓談の時を過ごし、全員のアーメンハレル



登美ヶ丘カトリック教会発行
『HEART—小さな手のひらに
地球を』

定価1500円

教区中学生広島体験学習報告

今年度は、中学生35名、リーダー16人という例年になく多くの若者たちが、8月6日に広島を訪れた。8月4日に大津教会に一泊し事前学習会を行い、体験学習が有益なものとなるよう意識づくりがなされた。

8月6日、当日は朝の祈りの中
で、長崎での被爆体験をお持ちの
田中司教様から、その時の体験を
分かち合つていただいた。午後に
は広島の被爆者の方の体験をお聞
きし、中学生たちは、その後の話
し合いの中で、平和の大切さにつ
いて改めて気づかされた事や、自
分たちの毎日の生活で福音的価値
観（中学生たちはその言葉は使わ
ないが）に生きて行くことが、平
和をこの世界に建設してゆくこと
に直接つながっているとの意見が
出されていた。

今年で10回目を迎えた中学生の
体験学習であるが、糺余曲折を重
ねて、改めて「信仰への問い」と
しての体験学習へと変革されてき
たことに感謝し、今後もより一層
の皆さんのご理解とお祈りをお願
いしたい。



平和は築きあげるもの

清風集

私は、広島体験学習に行って、
すごくよかったですと思います。

前に修学旅行で、広島に行つた

分たちの毎日の生活で福音的価値観（中学生たちはその言葉は使わないが）に生きて行くことが、平和をこの世界に建設してゆくことに直接つながっているとの意見が出されていた。

全部分かつたわけじやなくて、
分からぬこともまだあるは
れど、みんなわかつてゐることだ
と思うけれど、一番分かつたこと

として、今の時代や次の時代の人々が、広島や長崎であつたことを知つて、そしてもう一度と同じ間違いをしてはいけないということだと思います。

私は、発表の時にも言つたことだけれど、どうして韓国人原爆犠牲者慰靈碑が平和公園の外に建てられてあるのか、人さらいのようにつれて来られて、しかも原爆の犠牲にあつたのに、補償金も出してもらえない、そんなのはひどいことだと思います。

韓国人だからって、日本人と違う扱いをするのはよくないと思います。もしも韓国の人人が自分の身内、あるいは友人だったら、そんなひどいことはできないと思いません。

国によつて差があるのはおかしいと思います。「平和にしよう」としている中で、それは間違いでなあさなくてはならないんだと思ひます。直してそこで、平和にならんだと思います。

まだたくさん平和といえないとがあると思うから、それを早くきづき、犠牲になつた人たちが満足に思えるような世界にしていきたいし、みんなもしていつて欲しいです。

いをしてはいけないということだと思います。

戦争はいけない！

沖
敷史

ぼくは、広島体験学習へ今年初めて参加しました。

広島に初めて行ってみた感想とは、戦争はいけないと改めて思つたということです。

広島に初めて行ってみた感想とは、戦争はいけないと改めて思つたということです。

広島に初めて行ってみた感想とは、戦争はいけないと改めて思つたということです。

広島に初めて行ってみた感想とは、戦争はいけないと改めて思つたということです。

なぜそこ思つたかというと、争では、人殺しをしても罪にならなかつたり、資料館で見てきたようなこともおこつたりするからです。原子力爆弾によつて20万人をこえる人々の生命が失われ、半径約2キロメートルにも及ぶ市街地が廃墟となつたのに、核兵器を令でも作つてゐる国があるらしいのです、それはとてもよくないことで、それにはとてもよくないことがあります。

10月 教区スケジュール

- 3日(日)特別聖体奉仕者学習会
 (京都北部地区)
 ▽結婚互助会相談室・集い
 (河原町カトリック会館)
- ▽墓地委員会
 (河原町カトリック会館)
- 8日(金)信睦二金会(西陣教会)
- 10日(日)堅信式(桃山教会)
- 11日(月)三重県信徒大会
 (津・セントヨゼフ)
- 14日(木)司教顧問会
 (河原町カトリック会館)
- ▽京都南部司祭及び
 教区付司祭月例会
 (河原町カトリック会館)
- 17日(日)聖体贊美と感謝ミサと
 行列(西陣教会)
- ▽都の聖ラザロ・
 元和殉教者列福祈念ミサ
- 21~24日第2回福音宣教推進全
 会議NICE II(長崎)
- 23~24日1日神学生入門
 (桂教会)
- 24日(日)羊会例会(高野教会)
 ▽南信協バザー(河原町)
- 28日(木)男女管区長会議
 (ウイチタ修道院)
- 31日(日)衣笠墓地共同清掃14時
 ▽堅信式(田辺教会)
- ▽バザー(大津教会)

お知らせ

▼信徒使徒職養成コースの案内
 第94回基礎コース

日時・11月20日~23日

場所・宇治カルメル

費用・21000円

申込締切・11月1日

福音センターまで075-822-7123

▼特別聖体奉仕者養成コースの
 内容・信徒による

聖体授与の実際
 場所・日本カトリック
 研修センター(名古屋)

日時・10月8日~11日
 案内

聖体授与の実際
 場所・日本カトリック

申込は研修センターまで
 費用・28780円
 場所・日本カトリック

申込は研修センターまで
 TEL 052-831-5037
 FAX 5317

講師・大塚喜直(教区司祭)
 日時・10月24日(日)
 場所・聖ドミニコ女子修道院
 時間午後2時~4時半

講師・大塚喜直(教区司祭)
 日時・10月24日(日)
 場所・聖ドミニコ女子修道院
 時間午後2時~4時半

講師・大塚喜直(教区司祭)
 日時・10月24日(日)
 場所・聖ドミニコ女子修道院
 時間午後2時~4時半

▼「いこか、つくろか

東九条マダン(広場)

日時・10月9日(土)午後1時~

場所・陶化中学校(地下鉄九条駅)

主催・東九条マダン実行委員会

連絡先・希望の家保育園

TEL 075-681-6881
 FAX 682-2529

▼「一万匹の蟻運動」基金報告

累計 3,939,559円

加入者 662名

(8月17日現在)

書道展・絵画展応募要項

93聖書週間

- 主催……京都教区・カトリックきょうと福音センター・聖書使徒職委員会
 - 趣旨……聖書を生活中に入れていく
 - 参加資格……(イ)子供の部一幼児から高校生まで(ロ)成人の部一般社会人(どなたでも)
 - 出品要項…【書道】
 出品点数 2点まで
 大きさ 自由
 表装、裏打ちなし
 出品料 1点につき 子供の部 200円 成人の部 300円
 - 【絵画】
 出品点数 2点まで(合作も可)
 大きさ 自由
 額縁なし
 出品料 1点につき 子供の部 200円 成人の部 300円
- *内容は聖書の中から自由に選んでください。
 *申し込み用紙と出品料を作品にそえて出品してください。
 *全員に参加賞をさしあげます。(子供の部は入選者に表彰状)
 *取りにこられる方には作品をお返します。
- 出品締切…10月31日(日)厳守
 - 送り先……カトリック京都福音センター
 〒604 京都市中京区壬生淵田町26
 ☎(075)822-0123
 - 展示会……西院カトリック会館 1階ホール
 11月16日(火)~11月26日(金)

あなたの良き隣人として

カトリック御葬儀
 貨物一式(仏式可)

聖ヨゼフ葬典社

パウロ 杉下安雄
 (西院教会所属)

京都市右京区西院寿町23
 ☎(075)312-7829